

朝鮮通信使と雨森芳洲の一考察

魏, 聖銓 / Wui, Sungjeun

(出版者 / Publisher)

法政大学小金井論集編集委員会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

Koganei Journal of the Humanities / 法政大学小金井論集

(巻 / Volume)

14

(開始ページ / Start Page)

15

(終了ページ / End Page)

34

(発行年 / Year)

2018-03

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00021641>

朝鮮通信使と雨森芳洲の一考察

ウィ
魏

ソン ジュン
聖 銓

1 朝鮮通信使について

「朝鮮通信使」は朝鮮王朝が派遣した使節団で、江戸時代1607年から1811年まで朝鮮から12回にわたり日本の江戸まで来た外交使節団をいう。ソウルから江戸まで片道約2200km、朝鮮通信使は8カ月から長くは1年近くかけて歩き、往復4400kmの道のりを歩いた。12回中2回目（1617年）は京都までで、最後の12回目（1811年）は対馬で国書の交換式が行われて終了したため、漢陽（現在のソウル）から江戸まで来たのは計10回になる。

通信使派遣には、日朝双方にそれぞれの思惑があった。朝鮮側は、儒学の国というプライドがあり、威厳ある態度を日本で示した。清道旗を先頭に行列を組む、国王使としての威厳を示したのはその表れで、一方、家康は文禄・慶長の役（1592年～1598年12月）のあと8年も経っていない状況下で命をかけて来聘（らいへい）に応じ、日本に来た最初の使節のために鎌倉、駿河湾遊覧に誘い、ねぎらったものである。朝鮮側が求める火縄銃購入を許した背景には、幕藩体制の強化のために通信使を利用しようという思惑もあったことは否めない。

中国、オランダのような通商だけではなく、「信（よしみ）を通わす」使節団、すなわち両国の善隣関係を象徴する通信使は徳川将軍が代わる度に来日したが、両国の外交関係だけではなく、一般庶民まで一丸となって朝鮮通信使を迎え、200年間も平和であったことが意義深い。

その朝鮮通信使は、正使、副使、従事官の三使と第1級の学者、医者、画家が加わる総勢370～500人の大使節団だった。対馬藩がこの使節団の案内役となり、日本全国を練り歩くわけだが、多いときには警護や御馳走役などを含むと2000人から3000人くらいの規模の行列が各地を歩いたことになる。

- 朝鮮通信使は、両国の外交使節団であり、国を挙げてのビックイベント
- ①松雲大師と徳川家康と宗義智のそれぞれの思惑があったにしても、1607年からの朝鮮通信使は文禄慶長の役の戦後処理を目的とした平和使節団としての機能も担っていた。豊臣秀吉が起こした戦争を徳川家康が和平に転換させるという格好になったが、東洋の平和を重んじ、朝鮮との国交回復という賢明な判断をした家康は今日再評価されるべき人物である。
- ②「朝鮮通信使」は現代の日本と韓国の人々に古来からの善隣友好の教訓をもたらし、貴重な歴史として学ぶべき点は多い。船橋の造設や‘川越をする’時、人足だけでなく、大勢の人々が川の勢いを弱めるために代わる代わる川に入った様子が使行録の記録にあるが、朝鮮通信使を迎える日本側のホスピタリティがよく分かる。

2 朝鮮通信使の名称について

朝鮮王朝の前の高麗時代末期（14世紀）から「日本遣使」と「朝鮮通信使」の交流はすでにあったが、最初から「通信使」という名称ではなく、「回礼使」、「報聘使（ほうへいし）」などの呼び名もあった。朝鮮王朝第4代国王世宗の時代から「通信使」という名称が定着するようになった。

両国の外交使節団の往来は、室町時代（韓国では高麗時代）以前からあり、日本からは「日本国王使」という名称で、1377年から1589年まで、71回朝鮮に送っていた。それに対して、朝鮮からの通信使という名の使節団は1428年がはじめてだが、それ以前は「回礼使」「報聘使」「国使」という名前で1367年から1590年まで、返礼としての使節団を23回日本に派遣した。

室町時代は倭寇の禁止の要請などのための外交使節団という性格もあったが、朝鮮王朝実録などに日本と朝鮮との外交に「誠信」という言葉が使われていて、「通信使」という名称で来日した使節団は5回ある（1428年、1431年、1439年、1443年、1590年）。また、朝鮮後期の朝鮮通信使も12次中1次から3次までは「回答兼刷還使」の名称だったことなどを総合して考えると、朝鮮時代前期と後期（江戸時代）を合わせて「朝鮮通信使」とすべきであろう。

3 朝鮮通信使の行路

朝鮮通信使はソウルを出発して、釜山に着いてから、日本に持っていく荷物をまとめたり、船の整備をしたりして、対馬藩からの使者と合流し、釜山港を発つ。

1763年通信使製術官南玉の『日観記』によれば、「朝鮮通信使の往復行路は総11,335里(4500km)である」という。

3-1 朝鮮通信使の行路について

釜山を発った通信使は対馬、壱岐、相島(現、福岡県)を經由して、下関(赤間関)に入る。瀬戸内海の上関(山口県)、下蒲刈(広島県)、牛窓(岡山県)、室津(兵庫県)を経て、大坂港に着き、海路の旅は終わる。大坂港からは川御座船に乗り換えて、淀川を上って京都に向かう。京都から江戸までは陸路の旅になるわけだが、京都、大津、守山、近江八幡、琵琶湖(滋賀県)を左に見ながら、朝鮮人街道を歩いて進む。彦根、摺針峠(すりはりとうげ)を超え、大垣、名古屋、岡崎、浜松、掛川、静岡(駿河府中)、興津、由比、富士山を左に見ながら、さらに吉原、三島、箱根、小田原、大磯、藤沢、品川の順に移動し、江戸に着く。日光の東照宮にも3度行ったと記録されている。これらは後述の「表 朝鮮通信使節の一覧表(P34)」を参照。

3-2 朝鮮通信使が歩いた主な場所(日本と朝鮮)

(1) 朝鮮漢城(ソウル)から釜山までの主な場所(国書と返書が通った道)

ソウルから釜山までの日程だが、行きと帰りのルートは同じではない。また、朝鮮国王に謁見する三使以外に招集された人の中には、途中から使行に合流する場合もある。親の服喪などの用事で遅れてくる人も最終的には集結地である釜山で合流することになる。

往路(下行)	昌德宮창덕궁	良才양재	板橋판교	龍仁용인	陽智양지
竹山죽산	無極무극	崇善숭선	忠州충주	安堡안보	聞慶문경
龍宮용궁	醴泉예천	豊山풍산	安東안동	一直일직	義城의성
義興의흥	新寧신녕	永川영천	毛良모량	慶州경주	仇於구어
龍堂용당	東來동래	釜山부산			蔚山울산

約418km (20日くらい所要)、下線部は往復とも立ち寄った場所である。

復路 (上行) 東萊동래 梁山양산 無屹무흘 密陽밀양 榆川유천
清道청도 梧桐院오동원 大邱대구 松林寺송림사 仁同인동 善山선산
五里院오리원 尙州상주 咸昌함창 聞慶문경 延豊연풍 槐山괴산 陰城음성
無極무극 陰竹음죽 利川이천 慶安경안 廣州광주 昌德宮창덕궁

(2) 日本国内、対馬から江戸、日光まで (往復が同じ)

対馬 (鱒浦、府中) 比田勝、巖原→壱岐 (勝本浦、郷ノ浦) →相島→赤間関
(下関) →向島→上関→津和→下蒲刈→鞆の浦→福山→牛窓→室津→兵庫
→大阪→淀→京都→伏見→守山→大津→近江八幡→彦根→今須→大垣→岡崎
→赤坂→吉田→新居→浜松→見付→掛川→金谷→藤枝→静岡→江尻→吉原→
三島→箱根→小田原→大磯→藤沢→品川→江戸→(日光 [日光までは1624、
1636、1655年の3回のみ])

4 朝鮮通信使と雨森芳洲

4-1 雨森芳洲 (1668-1755) 滋賀県長浜市高月町に生まれる。



元京都大学の上田正昭氏が雨森芳洲を「湖北出自の先覚者」と表現したように、江戸時代の誇れる儒学者、教育者 (韓語司/通詞) の育成に力を入れていた)、日朝外交に大いに貢献した外交官である。

朝鮮通信使と雨森芳洲とのかかわりは、1711年 (8回目、43歳)、1719年 (9回目、51歳)、1748年 (10回目、81歳) まで3度の接点がある。直接かかわったのは、8回目と9回目の朝鮮通信使の時に真文役として随行していて、朝鮮人との詩文唱和など使行録にも雨森芳洲の名は多く見られる。

雨森芳洲が61歳の時に書いた「交隣提醒」の中に「～誠信と申候ハ実意を申事ニて、互ニ不欺不爭真実を、以交り候を誠信とは申候」という一文があるが、「誠信」という言葉を強調している。日本人でありながら、300年前に日朝外交

及び日朝貿易を中立的に且つ客観的に述べているところに感動を覚え、「互いに欺かず争わず、真実を以て交わる」という言葉にも感銘を受けた。

雨森芳洲に関連する書籍の中では、「国際化」、「多文化共生」、「相互理解」がキーワードになっていて、大陸の窓口になっている対馬藩の外交官として語学の大切さを知っていた優れた人物である。36歳の時には韓国語学習書『交隣須知』を著し、通詞の育成にも励み、単なる通訳養成ではなく、学問的にも人間的にも素晴らしい人材の育成に徹底した教育者でもある。これについては「雨森東五郎より言葉稽古之者共へ申渡候書付之覚」にも記されている。

○ 雨森芳洲の顕彰会

雨森芳洲を顕彰する団体は、長崎県対馬市の芳洲会と滋賀県長浜市高月町の芳洲会があるが、生誕に関する行事は高月町の「芳洲会」で行われ、命日（忌日）に関する行事は対馬日吉の「芳洲会」で行われている。因みに、2018年5月18日には高月町で生誕350年祭が行われた。

○ 異文化の尊重と語学の大切さを強調した雨森芳洲

- ① 位の高い外交官にもかかわらず通訳を通さないで、自分で会話ができるように中国語、朝鮮語を極めることを目指したこと。
- ② 当時は漢文ができれば不自由はなかったのだが、「ハングル」の学習に励み、教科書まで作ったこと。
- ③ 単なる通訳養成ではなく、学問的にも人間的にも素晴らしい人材を育成するために努めたこと。『交隣提醒』の中でも正徳元年、享保4年の通信使の真文役を務めながらの経験、すなわち異文化コミュニケーションの重要性などに言及し、語学の力だけでない教訓を後世に残している。

○ 生涯学習の大切さ

- ① 記録の大切さを説いた芳洲は自ら大量の記録を残した。『交隣提醒』『交隣須知』『全一道人』他多数。
- ② 医学、儒学、中国語、朝鮮語、81歳から和歌の研究を始める。『古今和歌集』千編読み、『和歌詠草』には81歳-83歳までの和歌が収められ、生涯で一万首の和歌を作った。

- ③ 交隣提醒 (1728、61歳著す)：対馬藩主義誠に、朝鮮との交わりにおいて注意すべき点を54箇条書にまとめたもの。交隣は隣国(朝鮮)との交わり、提醒は「注意を喚起すること」

4-2 雨森芳洲と朝鮮の人との付き合い

(1) 誠信堂で見られる「玄徳潤との親交」

1711年(正徳元年)8次の通信使が来た時、従事官李邦彦の通詞だった玄徳潤が釜山訓導として芳洲の交渉の取次となった。釜山のあった倭館と折衝する窓口で倭館の近くに玄徳潤が自費を投じて建てた「誠信堂」があった。芳洲は「誠信堂記」で、玄徳潤の功績を讃えている。その一部を紹介し、大体の意味を次に記す。

「誠信堂記」雨森芳洲撰・筆者不詳 芳洲会蔵(管理団体長浜市高月観音の里歴史の中民俗資料館保管) 原文を翻刻したもの。「誠信堂記」(『橘牕文集』巻一)

A. 翻刻

～(中略)蓋交隣之道、誠信為先而後可以保其無恙。雖然、久著之信可以及豚魚、暫且之誠不足動孺子。凡居斯堂而任交隣之責者、焉得泛然罔或深思乎。万一用智逞巧、規利自私、小而致隣人之懟、大而開辺事之釁。則卑梁之桑、梁亭之瓜。禍福之間相去、何啻天淵也哉。

玄君之為人、処心沈邃、奉公勤慎、所以自警于己、後又將欲勸於後人。可謂切矣。己酉之歲、余適奉差於此、觀其事而嘉其志、實有不能以自己者。遂書此以為記云。

B. 〈解説〉

蓋(けだ)し交隣の道は誠信を先と為して、而(しか)る後に以て其の恙(つつが)無きを保つべし。然りと雖も、久著(きゅうちよ)の信なれば以って豚魚に及ぶべきも、暫(ざん)且(しよ)の誠なれば孺子(じゅし)を動かすに足らず。凡(およ)そ斯(こ)の堂に居りて交隣の責に任ぜられし者は、焉(いず)くんぞ泛(へん)然(ぜん)として深思或(あ)ること罔(な)からんや。万一智を用いて巧を逞(たくま)しくして、利を規(はか)りて自ら私(わたくし)せば、小にして隣人の懟(うら)みを致し、大にして辺事の釁(きん)を

開く。則ち卑（ひ）梁（りょう）の桑、梁亭（りょうてい）の瓜なり。禍福（かふく）の間相去ること、何ぞ畜（た）だに天（てん）淵（えん）のみならんや。

玄君の人と為（な）り、処心 沈遂（しんすい）にして奉公勤慎、所以（ゆえ）に自ら己（おのれ）に警して、後に又 将（まさ）に後人に勧めんと欲す。切なりと謂ふべし。

己酉の歳、余 適（たま）たま此（ここ）に奉差し、其の事を觀（み）て其の志を嘉（よみ）す。実（じつ）に以て自ら己（や）む能（あた）はざる者有り。遂（つい）に此（これ）を書いて以て記を為（な）すと云（い）ふ。

C. 「誠信堂記」現代日本語訳

思うに隣国との外交の正しいあり方は、誠信（真心）を最優先にすることであり、そうしてはじめて平穏な状態を保つことができる。しかしながら、長期にわたる真心があれば（人だけでなく）豚や魚たちにも影響を及ぼすことができるが、一時的な誠信では子供さえ動かすこともできない（ので、長期にわたる真心が大切だ）。この誠信堂において外交関係の責任を担う者は、（このことについて）どうしてぼんやりと深く考えずにいられようか、いや深く考えずにはいられない。万一小賢しい知恵を用い、好き勝手に悪巧みをして自分の利益を得ようとしたら、小は隣国の人々の恨みを買ひ、大は国境周辺に問題が起こるにいたる。つまり（国境付近の争いが）「卑梁之桑」のように些細なことでも戦争に至ったり、「梁亭之瓜」のように、相手国の問題行動に対し恩情をもって対応したため、友好的な国家関係を結ぶに至る場合もある。（ともに国境付近の争いがもとになったものの、戦争に至った「卑梁之桑」の）禍と（友好関係を結ぶに至った「梁亭之瓜」の）福の隔たりは、高天と深淵だけにとどまらない（それ以上の隔たりがある）。

玄君の人柄は、精神が落ち着いていて君主に尽くし、勤勉で言動が控えめである。自ら厳しく戒め、また後輩たちを教え導こうとしていて、（その言動は）適切といえる。

己酉の年（享保十四年、1729）、私はたまたまここに派遣され、玄君の仕事ぶりを見て、その心映えが素晴らしいと思った。その気持ちを抑えきれないものがあつたので、このことを書いて「誠信堂記」とした。

【語釈】

「卑梁之桑」…春秋時代の呉の小村卑梁の子供と、楚の小村鍾離の子供が桑摘みの争いをし、両国の戦争に至った故事。些細なことでも大きな問題になりえる例えとして用いられる。

「梁亭之瓜」…戦国時代、楚の駅亭の人が、梁の駅亭の瓜を荒らしたことに對し、梁の県令の宋就が楚の瓜に水を注がせて温情を示した故事。その結果、楚王が梁王に交際を求め、良好な関係を結ぶに至った。恨みがあっても恩で報いるべきだという例えに用いられる。

(2) 雨森芳洲と李東郭が交わした書簡

下記の書簡の上段部の七言律詩は、正徳元年の通信使製述官だった李東郭が1713年に雨森芳洲に宛てた七律で、下段部は雨森芳洲が24年後(1737年)に書いた「附雨森芳洲識語」である。

下の図(書簡)上段部には、李東郭が1711年(正徳元年)通信使製述官の任務を終え、帰国したあと雨森芳洲に宛てた七言律詩で、下段はのちに亡くなった旧友を追慕して雨森芳洲が書いた文章である。お互いの親交がよく分かる記録である。



「李東郭の詩と雨森芳洲の書」の中の「～(中略)賛治に表具させた。これを子孫代々に伝え、彼と私が無二の親友だったことを永く伝えたい。」という言葉からは、記録を残し、その記録を大事に保存し、後世に伝えることの大切さをこの書から学んだ。

[雨森芳洲と李東郭が交わした書簡]

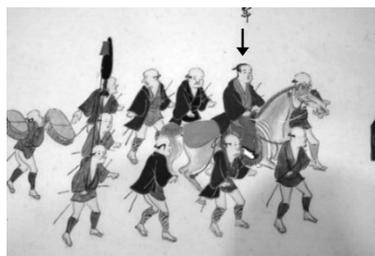
5 雨森芳洲の外交哲学は『交隣提醒』

「民族、文化の平等思想」を訴えている『交隣提醒』を書いたのは芳洲61歳の時、この中の最後の54項目に、「～誠信と申候ハ実意を申事にて、互ニ不欺不爭真実を以交り候を誠信とは申候」とあり、朝鮮通信使関連の書物などによく引用されている。しかし、『交隣提醒』は古文書になっているため、翻刻した文章やそれをさらに読みやすく解説した日本語訳をしても意味が分からず、難しいと言われている。

ユネスコ世界記憶遺産に登録されたからには、現代語訳をさらに易しい文章にして、雨森芳洲が言おうとする意味を、より多くの人々に分かりやすく伝えるべきであろう。



a. 「交隣提醒」



b. 1711年朝鮮通信使真文役の芳洲
(馬に乗っている人)



c. 誠信堂記の一部

5-1 『交隣提醒』をより分かりやすく、より多くの人々に知ってもらうための試み

複数の交隣提醒の関連資料の中から、『交隣提醒』芳洲会、『交隣提醒 全』芳洲会編、『注訳 交隣提醒』国学資料院、『みんなが読める交隣提醒』平井茂彦(1, 3, 11, 12, 13, 14, 25, 27, 28, 32, 52, 54の12項目)、『交隣提醒』田代和生を選び、交隣提醒の54項目のうち1, 10, 11, 12, 13, 14, 25, 27, 54の9項目を選び抜いて、日本語訳と韓国語訳を試みた。

1項目はプロローグとして、54項目は結論的な項目として重要だと考えて取り上げ、10-12項目までは通訳の重要性を取り上げた項目として、13, 14項目は、異文化の違いについての項目として、25と27項目は1719年(享保4年)の通信使の様子が現れている項目として取り上げた。

試案の9項目は、偶然にも『みんなが読める交隣提醒』の12項目(1, 3, 11, 12, 13, 14, 25, 27, 28, 32, 52, 54)と重なっている。それは、面白くて分かりやすい例が挙がっていて、一般向けに適していると判断したのであろう。平井茂彦氏によると今後『みんなが読める「交隣提醒」』の続編はないということだが、「通信使」と「異文化の相違」にかかわる項目を分かりやすく紹介してもらい、韓国語の翻訳「みんなが分かる雨森芳洲」や「みんなが分かる日韓交流」(仮称)を作る際の参考にしたい。

5-2 『交隣提醒』をより分かりやすくする「現代語訳のケーススタディー」

交隣提醒12項目の日本語と韓国語の翻訳の難しさを克服し、ダイジェスト版を実現するための試案の手順・実例を以下に述べる。

手順は、A翻刻→B解説、C平井訳、D韓国語訳(中村幸彦・水田紀久1982を参考に)、E韓国語訳の修正、F著者の意識(試案)

A翻刻→ 12 通詞取次いたし候節、訳官共と中間ニ而申合候事を、人ニ寄り何事を申候哉、此方之申分を直ニ彼方へ達し、彼方被申候事を直ニ此方へ申候へハ相濟候所ニ、仕形難心得候と不審を立候人有之候、是ハ通詞共中間ニ而申合、勿論不宣事も可有之候へとも、事ニ寄り甚宜キ事も有之候故、一概ニ疑可申事にて無之候、ケ様之義も人情・事勢ニ心を用申候人ハ、自然と相知申事ニ候、(『交

隣提醒』田代 2017)

B 解説→ ①対馬藩の朝鮮語通詞が取次をいたしますとき、朝鮮の訳官共と日朝の中間で相談します事を、人によっては何事を申しますことや、此方（日本）之の申し上げたい事柄を、訳官を経ず直に朝鮮側に伝え、朝鮮側が申されますことを、通詞を経ず直に日本側に申し上げますとそれでことが済みますことが（此方へ申候へハ相濟候所ニ）、一々中間の相談を扶むやり方が納得できないと交流の仕方に疑いを持ちますことがあります。

②これは訳に当たるもの達が、中間で相談し、もちろん弊害もあることでありますでしょうけれども、これによっては大層（とても）好ましいこともありますので、一概に疑いを持つことがありますと申し上げることではございません。

③このようなこと（ケ様之義）も人情・事勢に心を用います人は、自然と分かっておりますことです。

C 『みんなが読める交隣提醒』 → ①通詞が取り次ぐ際（時）、朝鮮側の訳官達と途中で打ち合わせすることを、人によっては何を言っているのやら、こちらの言い分を直接向こうへ届け、向こうの言い分を直接こちらに言えば済むのにもやり方が納得（承知）できぬと不審（疑問）が人があります。

②通詞が中間で打ち合わせてよくないことも確かにありますが、事によっては大変うまくゆくこともあり、一概（ひっくるめて）に疑うべきことではないのです。

③このようなことも人情・社会のありようを心にかける人は自然に理解できることです。

D 『訳注 交隣提醒』 2000

①통사가 (중간에서) 교섭을 할 때, (조선측의) 역관들과 중간에서 의견을 조절을 하는 것을 놓고, 사람에게 따라서는 “무슨 말을 하고 있는 거야? 이쪽의 말을 그대로 저쪽에 전하고 저쪽의 말을 이쪽에 그대로 전하면 될텐데 아무 래도 하는 것이 남득이 안 된다” 고 의심스럽게 생각하는 사람이 있다.

②통사들이 중간에서 의견 조절을 함으로써 물론 좋지 않은 경우도 있겠지만, 사안에 따라서는 대단히 잘 풀릴 경우도 있으므로 일률적으로 의심할 일은 아니다.

③이러한 것은 인정 및 상황의 분위기 등을 고려하는 사람이라면 자연히 알 수 있

는 일이다.

E 『訳注 交隣提醒』2000 を修正したもの（修正は著者）

- ① 통사가 교섭을 할 때, (조선의) 역관들과 중간에서 의견을 조절을 하는 것을 놓고, 사람에게 따라서는 왜 저렇게까지 할까하고 의심을 하는 사람도 있다. 이쪽의 말을 그대로 저쪽에 전하고 저쪽의 말을 이쪽에 그대로 전하면 될텐데, 역관들이 하는 일이 남득이 안 간다고, 의심하는 사람들이 있다.
- ② 통사들이 중간에서 의견 조절을 함으로써 좋지 않은 경우도 있겠지만, 사안에 따라서는 오히려 일이 더 잘 풀릴 경우도 있으므로 무턱대고 의심할 일만은 아니다.
- ③ 이러한 것은 인정 및 상황의 분위기 등을 고려할 줄 아는 사람이라면 자연스럽게 알 수 있는 일이다.

F A-Eまでを総合して、著者がリライト（ダイジェスト版の試み）

조선과 일본의 통역들이 중간에서 불필요한 상의를 한다고 보는 사람들도 있지만, 통역 뿐만이 아니라 서로의 문화나 상황에 이해심을 가지고 있는 사람이라면 그 행위 자체가 자연적이라는 것은 쉽게 이해할 수 있을 것이다. 물론 통역들끼리의 하는 일들을 다 잘한다고는 할 수 없지만, 무턱대고 의심할 일은 아니다.

6 日韓各地での朝鮮通信使の活動について

フィールドワークの行く先々で関係者方々の取材を通じて貴重な教えをいただき、予想以上の成果があった。日本では、NPO 法人縁地連絡協議会やNPO 法人AYU ドリームの関係者の方に助けられた。一方、韓国では、韓国ソウルに事務局をおく「朝鮮時代の朝鮮通信使顕彰会」の方々、活発な活動を行っていて、今後社団法人を作る計画をしている。しかし、地域の仲間同士が中心になって、朝鮮通信使関連の事業を展開している日本のやり方とは異なり、韓国では宗親会（大宗会）が中心になって顕彰活動を行っているため、互いの文化ややり方に尊重の念を持って協議すべきである。次に各地での活動している団体などを簡単に列挙する。

6-1 韓国の活動について

- (1) ソウル：朝鮮通信使顕彰会（財団法人を目指す）、国立中央博物館、国史編纂委員会、国立中央博物館、縁故地協議会（韓国には2018年3月に縁故地協議会が発足したばかりで、釜山と永川〔ヨンチョン〕だけが活発で他の縁故地では、あまり活動がなされていないのが現状）などの団体の活動が目立つ。

ソウルに事務局を置く「朝鮮通信使顕彰会」は東京の「川越の唐人揃いの朝鮮通信使再現行列」など日本のイベントに三使の子孫として参加している。

2018年11月17日、18日には、上関で「朝鮮通信使ゆかりの地全国大会」が行われるが、今後この大会が韓国の釜山以外のところでも開かれることを切に願う。

- (2) 永川（ヨンチョン）：馬上才の再現、朝鮮通信使事業会の活動をしている。毎年、京都の藤森神社でもかつての通信使の面影が残る「馬上才」が見られる。
- (3) 原州（ウォンジュ）：1764年正使趙曦（チョオム）の記念館には、コグマ（サツマイモ）の記録などが展示されている。記念館の裏の小山には、趙曦のお墓と顕彰碑がある。
- (4) 蔚山（ウルサン）：李藝（外交官で日本に44回来日）李藝記念事業団が李藝の顕彰を活発に行っている。
- (5) 密陽（ミリャン）：四溟大師記念館があり、朝鮮通信使の再開を実現させた松雲大師（徳川家康と1604年に伏見城で会見した人物）を顕彰している。
- (6) 安東（アンドン）、通信使の使行録に出て来る建物の管理、保存について安東科学大学の金サンギョ先生が詳しい。
- (7) 釜山（プサン）：釜山文化財団 毎年5月朝鮮通信使パレード
柳鍾穆（ユ・ジョンモク）代表理事は、「世界の主要都市を回って通信使パレードを開催し、朝鮮通信使の意味を広める行事を実施したい」と通信使の発信に積極的。

①「草梁倭館」：現在の釜山広域市南浦洞の龍頭山公園の一帯にあった。1678年新築された日本人居留地で、朝鮮国との交易や貿易を行った。倭館

に居住することを許された日本人は、対馬藩から派遣された館守以下、代官（貿易担当官）、横目、書記官、通詞などの役職者やその使用人、小間物屋、仕立屋、酒屋などの商人、更には医学及び朝鮮語稽古の留学生も滞在しており、住民は常時400人から500人滞在していたと推定されている。草梁倭館の広さは約10万坪ともいわれ、長崎出島の約25倍の広さである。現在は龍頭山公園の入り口付近に草梁倭館跡記念碑がある。

鎖国時代の日本人町を幕府が公認したもので、徳川家光第3代将軍の鎖国令にも関わらず、日本は釜山にある倭館を通じて日朝の善隣外交と貿易を行っていたことは史実であり、重要な点である。

② 釜山にある「朝鮮通信使歴史館」

日韓の平和使節団としての朝鮮通信使の業績を振り返る朝鮮通信使歴史館が2011年4月21日子城台公園の敷地に開館した。通信使の「通信」というのは「信じる気持ちで相互交通」という意味であり、今後の日韓交流に大いに参考になるキーワードである。日韓の緊張関係を交隣・善隣友好思想を基にし、両国民の平和的関係を維持させた公式的な外交使節団の活動と記録を見ることが出来る場所である。

③ 永嘉台：現在は朝鮮通信使歴史館の2階にあるが、古い地図を見ると元々は現在の場所から少し離れた場所にあったことが分かる。朝鮮通信使が釜山から出発する前に、安全航海を祈る儀式を行った場所であった。



② 朝鮮通信使歴史館



③ 永嘉台

(8) 「縁故地（ゆかりの地）協議会」の発足について

2018年3月2日 「朝鮮通信使縁故地連絡協議会」と今まで以上に緊密な

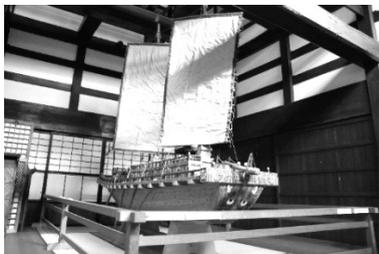
協力関係を図るために発足した。

世界記憶遺産の朝鮮通信使に、朝鮮前期の通信使が含まれていないということについて現在も議論が行われている。韓国国内のみならず、日韓の間でも言葉の解釈の難しさはあるが、「誠信交隣」で克服できよう。

6-2 日本各地での活動について

下記の(1)-(9)までは団体の活動の内容及び活動をしている団体と人を紹介する。

- (1) 長崎県対馬：対馬朝鮮通信使行列保存会、NPO 法人朝鮮通信使縁地連絡協議会（理事長 松原一征）、対馬芳洲会（小島会長）
- (2) 福岡：「朝鮮通信使と共に、福岡の会」（嶋村初吉）の活動、相島、福岡藩朝鮮通信使記録（黒田家文庫）をはじめ、興徳寺の扁額「海晏山」／多祇園山笠の「清道旗」と朝鮮通信使／朝鮮地蔵と貝原益軒、亀井南冥の墓／唐津藩の船手の記録／日田の廣瀬久兵衛、最後の朝鮮通信使で接待記録『久兵衛日記』などの記録がある。
- (3) 21世紀の朝鮮通信使友情ウォークの会：遠藤靖夫会長と韓国の「社団法人韓国体育振興会」の宣相圭（ソンサンギュ）会長が協力して2年毎に行われている。
- (4) 岡山県牛窓：海遊館、朝鮮通信使資料館と本蓮寺が一丸となって朝鮮通信使の活動に取り組んでいる。
- (5) 京都：相国寺の慈照院（住職：久山豊俊）、高麗美術館（常務理事：鄭喜斗（チョンヒドゥ））の活動と貢献度は大きい。
- (6) 三重県鈴鹿市・津市：津市の「唐人踊り」林さん、宮田さん／鈴鹿市東玉垣「唐人踊り」保存会の和田佐喜雄の活動と保存の努力を見習いたい。
- (7) 広島県呉市 松濤園と御馳走一番館
広島県呉市下蒲刈にある松濤園の中の御馳走一番館には、朝鮮通信使の資料や各地の人形が展示されている。
- (8) 滋賀県長浜市：長浜市の「東アジア交流ハウス」、雨森芳洲庵、芳洲会の活動は注目を集めている。下記p(8)の写真は滋賀県長浜市高月町にある「東アジア交流ハウス」の中の雨森芳洲の展示室。雨森芳洲庵の奥には神社もある。



p(7) 御馳走一番館の中の模型



p(8) 芳洲庵の展示室にて

- (9) 名古屋での通信使の記録：名古屋には「朝鮮通信使」に関わる組織はないが、朝鮮通信使の衣装を作る会やその衣装を着て愛知県内の地域に山車を出す活動をする集まりがある。また、韓国の伝統の代表的な「サムルノリ」の集いもある。朝鮮通信使再現行列については、定期的な再現行列はないが、2018年10月に名古屋まつりで家康の行列のあとに、国書を持つ「朝鮮通信使再現行列」が参加している。
- (10) 静岡：静岡県清水区興津にある「清見寺」を中心に、通信使の行事が活発に行われている。協力団体は、「NPO 法人AYU ドリーム」、「静岡に文化の風をの会」、「朝鮮通信使保存会」が静岡県と静岡市のサポートを得て活動している。
- (11) 「朝鮮通信使再現行列」は韓国と日本の各地で行われている。韓国では定期的な再現行列は釜山だけだが、永川でもたまに再現行列が行われている。一方、日本では韓国より活発に行われている。対馬と合同で下関において馬関朝鮮通信使行列再現（釜山文化財団の援助）、静岡興津を中心に「朝鮮通信使再現行列」などが毎年開かれている。その他にも岡山牛窓や京都の朝鮮通信使再現行列が行われている。

各地で朝鮮通信使の再現行列が行われるが、地元住民や子供達への参加を通して、朝鮮通信使の認知度を上げていることは重要な活動と言えよう。

7 ユネスコ世界記憶遺産「朝鮮通信使」

7-1 朝鮮通信使が世界記憶遺産に登録

2017年10月31日に朝鮮通信使がユネスコ世界記憶遺産に登録された。日韓の民間団体が共同で申請をした朝鮮通信使が世界に「平和使節団」として認められたことは意義深い。

次の写真は「ユネスコ世界記憶遺産登録」を祝う「朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会2017京都大会」祝賀会の様子と「NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会」の松原理事長は「日韓相互理解を学ぼう」という見出しの新聞記事（毎日新聞2017年10月31日）の中で、皆が「誠信」という言葉を両国の善隣友好に活かすべきだと力説している。



(2017年11月18日 京都で行われた祝賀会)



(毎日新聞2017. 10. 31)

7-2 朝鮮通信使をユネスコ世界記憶（記録）遺産に日本と韓国が共同申請

◇ユネスコ世界記憶（記録）遺産に共同申請要旨の概略

(2016年2月26日シンポジウム（場所：韓国ソウル）の記録)

1. 申請者（日韓の民間団体） 日本側：NPO法人 朝鮮通信使縁地連絡協議会
韓国側：財団法人 釜山文化財団
2. 申請時期と決定 申請：平成28年（2016年）3月下旬
決定：平成29年（2017年）10月31日
ユネスコ国際諮問委員会（ICA）

3. 選定資料の内容

- ① 外交記録 : 朝鮮国書 (日本東京国立博物館)
通信使登録 (韓国ソウル大学校奎章閣)
- ② 旅程の記録: 東槎日記 (韓国ソウル大学校奎章閣)、朝鮮通信使参着
帰路行列 (日本高麗美術館)
- ③ 文化交流の記録: 雨森芳洲関係資料 (日本 高月観音の里歴史民俗資料館)
趙泰億 (チョウ・テオク) 像 (韓国国立中央博物館)
東照社縁起 (仮名本) (日本 日光東照宮)
- ④ 申請リストの内容: 申請件数 日本側 48件 209点、
韓国側 63件 124点
合計: 111件 333点

8 終わりに

朝鮮通信使の記録だけではなく、それを保存・管理する人と団体を、一般の人々に公開し、また、通信使に関する記録物等をより多くの人々に接しやすいシステム構築の事業を活発に展開していく。そしてその記録が分かりやすく、読みやすくなるように翻刻や現代語訳を充実させた上で、データベース化することは、より多くの人々に広められるため、事業の効率アップに役立つだろう。本稿で『交隣提醒』を翻刻して、翻訳・解釈・脚注・注釈・語釈・現代語訳・リライト(ダイジェスト版)の順に作成することを提案したのは、一般向けに分かりやすく理解してもらうことの重要性を共有したいからである。

今後、日本の「縁地連(縁地連絡協議会)」と韓国の「朝鮮通信使縁故地協議会」が中心になって、「朝鮮通信使の平和外交」と「雨森芳洲の相互理解」、「多文化共生の理念」を世界中に発信すると共に、朝鮮通信使のキーワードである「誠信交隣」、「平和」「日韓友好」、「多文化共生」を掲げ、皆で力を合わせて、人類の平和に貢献できる活動に繋がることを願う。

参考文献

- 申維翰、姜在彦 [1974] 海游 — 朝鮮通信使の日本紀行 (東洋文庫 252) 新書
中村幸彦、水田紀久 [1982] 『芳洲外交関係資料集 雨森芳洲全書三 書翰』 関西大学出版部
- 高月町立観音の里歴史民俗資料館 [1988] 生誕 320 年記念特別展 雨森芳洲墨蹟展
(改訂版) 長浜市長浜城歴史博物館他 1 名 「雨森芳洲と朝鮮通信使：未来を照らす交流の遺産」
- 上垣外憲一 [1989] 『雨森芳洲』 中公新書
- 泉澄一 [1997] 『対馬藩藩儒 雨森芳洲の基礎的研究』 関西大学出版部
- 金仁謙、高島淑郎 [1999] 日東壯遊歌 — ハングルでつづる朝鮮通信使の記録 (東洋文庫)
- 辛基秀、仲尾宏 [2000] 図説・朝鮮通信使の旅
- 永留久恵 [2000] 『雨森芳洲』 西日本人物誌 14 西日本新聞社
- 仲尾宏 [2001] 『NHK 人間講座 朝鮮通信使』 2001 年 4 月～5 月
- 国学資料院 [2001] 『訳注 交隣提醒』
- 仁位孝雄 [2002] 友好交流を支えた・苦難の 4000 キロ「朝鮮通信使の道」 仁井孝雄
写真集 杉屋書店
- 芳洲会講演集 [2002] 芳洲会 平成 14 年
- 辛基秀 [2002] 朝鮮通信使の旅日記 — ソウルから江戸「誠信の道」を訪ねて PHP 新書
- 平井茂彦 [2004] 『雨森芳洲』 サンライズ出版
- 田代和生 [2004] 『倭館 — 鎖国時代の日本人町』 文春新書
- 日韓共通歴史教材制作チーム [2005] 日韓共通歴史教材 朝鮮通信使
- 仲尾宏 [2007] 朝鮮通信使 — 江戸日本の誠信外交 (岩波新書)
- 信原修 [2008] 『雨森芳洲と玄徳潤』 明石書店
- 金井三喜雄 [2008] 21 世紀の「朝鮮通信使を歩く」 — ソウル - 東京友情ウオーク
- 嶋村初吉 [2009] 『朝鮮通信使の光と影』
- 嶋村初吉 [2010] 玄界灘を越えた朝鮮外交官 李芸 — 室町時代の朝鮮通信使 —
- 上田正昭 [2011] ミネルヴァ日本評伝選 雨森芳洲 ミネルヴァ書房
- 仲尾宏 [2011] 朝鮮通信使の足跡 — 日朝関係史論 —
- 芳洲会 [2011] 『交隣提醒』
- 永留史彦 [2014] 対馬の交隣 交隣舎
- 池内敏 [2017] 絶海の碩学
- 芳洲会 編 [2017] 『交隣提醒 全』
- 平井茂彦 [2018] 『みんなが読める交隣提醒』

<表> 朝鮮通信使節の一覽表

年代			正使	副使	従事官	聘礼名目 使名	総人員(大阪 留)	使行録	備考・出来事など
西暦	朝鮮 日本	干支							
1607 1回目	宣祖40	丁未	呂祐吉	慶遷	丁好寛	国交回復 回答兼副遣使	504	海槎録 (慶遷)	鎌倉遊覧 駿河湾遊覧
	慶長12		(齋溪)	(七松)	(一翠)	倭情探索、被慮人の副遣	[100]		洛中遊覧
1617 2回目	光海君9	丁巳	吳允謙	朴梓	李景履	大坂平定 回答兼副遣使	428	東槎上日録 (吳允謙)	京都伏見聘礼
	元和3		(楸灘)	(雲溪)	(石門)	倭情探索、被慮人の副遣	[78]	東槎日記 (朴梓)	被慮人説論官巡回
1624 3回目	仁祖2	甲子	鄭岬	姜弘重	辛啓栄	家光襲職 回答兼副遣使	460	東槎録 (姜弘重)	被慮人説論官巡回
	寛永元			(道村)	(仙石)	倭情探索、被慮人の副遣	[114]	扶桑録 (李景履)	鳥銃購入
1636 4回目	仁祖14	丙子	任統	金世謙	黄辰	泰平之賀	478	丙子日本日記 (任統)	日本国大君号制定
	寛永13		(白麓)	(東溪)	(漫浪)		(不明)	海槎録 (金世謙)	日光山遊覧
1643 5回目	仁祖21	乙未	尹順之	趙綱	申濡	家網誕生	477	東槎録 (趙綱)	日光山東照宮
	寛永20		(滄溪)	(龍洲)	(竹堂)		(不明)	海槎録 (申濡)	靈廟致祭
1655 6回目	孝宗6	乙未	趙斡	俞瑒	南龍翼	家網襲職	485	扶桑日記 (趙斡)	日光山大猷院
	明暦元		(翠屏)	(秋潭)	(壺谷)		[100]	扶桑録 (南龍翼)	馬上才はなし
1682 7回目	肅宗8	壬戌	尹趾完	李彦綱	朴慶後	綱吉襲職	473	東槎日記 (金指南)	馬上才(八代洲河岸)
	天和2		(東山)	(鷺湖)	(竹庵)		[113]	東槎録 (洪馬載)	
1711 8回目	肅宗37	辛卯	趙泰徳	任守幹	李邦彦	家宣襲職	500	東槎録 (趙泰徳)	新井白石の改革
	正徳元		(平泉)	(靖菴)	(南岡)		[129]	東槎録 (任守幹・李邦彦)	馬上才(田安門内)
1719 9回目	肅宗45	己亥	洪致中	黄璋	李明彦	吉宗襲職	475	海槎記録 (洪致中)	馬上才(田安門内)
	享保4		(北谷)	(鷺汀)	(雲山)		[129]	海游録 (申維翰)	弓射芸(上野車坂町)
1748 10回目	英祖24	戊辰	洪啓禧	南泰耆	曹命采	家重襲職	475	海槎日記 (曹命采)	馬上才(田安門内)
	延享5 (寛延元)		(滄窩)	(竹裏)	(蘭谷)		[109]	隨槎日録 (洪景海)	弓射芸(上野下寺町)
1764 11回目	英祖40	甲申	趙曦	李仁培	金相翊	家治襲職	477	海槎日記 (趙曦)	馬上才(田安門内)
	宝暦14 (明和元)		(濟谷)	(吉菴)	(弦庵)		[110]	未使行日記 (吳大齡)	弓射芸(上野下寺町)
1811 12回目	純祖11	辛未	金履喬	李勉求	庾止	家齊襲職	328	辛未通信日録 (金履喬)	对馬府中聘礼
	文化8		(竹里)	(南森)				東槎録 (柳相弼)	馬上才はなし
							鳥遊録 (金普臣)		